

令和7年度 大阪府立槻の木高等学校 第2回 学校運営協議会

令和7年 10 月 25 日 10:00～12:30

大阪府立槻の木高等学校 応接室

委 員

会 長 渡辺 将史(本校 PTA 会長)

副会長 岩元 優子(高槻市立第一中学校校長)

委 員 宮坂 政宏 官田 光史

【欠席】 田中 隆夫 瓜生 彩子

事務局

浅田 和也(学校長)

坂口 亮(教頭) 江菅 純一(首席)

【欠席】

小川 大樹(教頭) 水井 理弘(事務長) 井上 公彦(首席) 安福 美香(学習指導室長)

次第

1、開 会

委員および事務局員紹介

学校長挨拶

会長挨拶

2、学校長より

- ・教職員の勤務時間変更に伴う始業時刻の繰下げについての説明
- ・令和 10 年度以降入試についての説明

令和8年 4 月 1 日から本校教職員の勤務時間が 8 時から 8 時 30 分に変更され、それに伴い授業開始時間も 30 分繰り下げられることが説明されました。この変更は教員の残業時間削減が主な目的で、朝の登校時間が早いという外部からの声にも対応するとの説明がありました。また、令和 9 年度末に行われる入試制度の変更について説明があり、学校特色枠の設定が可能になることが報告されました。槻の木高校では「文化・体育的活動」と「学校生活への意欲」の二つの特色枠を設ける予定で、前者では基礎運動能力に優れた生徒、後者では国際交流や大学訪問などに積極的に取り組む生徒を求めているとのことでした。

3、令和 7 年度学校経営計画の進捗状況(首席)

学校経営計画の重点目標「学力および学びに向かう力の更なる向上と進路実現を支援する」について

て報告がありました。具体的な取り組みとして、3 年生第 1 志望登録の実施、啐啄サポートによる大学進学希望者への面談指導（教員がチューターとなり支援）、土曜講習・平日講習・夏期講習の実施などが紹介されました。評価指標として、1 日の平均学習時間（平日 78 分、休日 127 分）や土曜講習の申し込み状況（1 年生は 8 割近い生徒が参加）、夏期講習の実績（35 講座、延べ 9000 人近い参加）などが報告されました。また、「槻の木ネクストステージ」として、大阪公立大学訪問、立命館大学留学生との交流、資生堂工場見学、台湾の高校生とのウェブ交流、タイとの姉妹校交流（ルン・アルン学園）などの取り組みが紹介されました。重点目標である「高い志の育成と規範意識の醸成」について、自転車整備チェックや遅刻防止キャンペーンなどの取り組みが報告されました。前期の遅刻数は 647 件で、特に連絡のない遅刻に対する指導の必要性が述べられました。また、「グローバルな人材の育成を推進する」という目標に関して、生徒会活動、体育大会、文化祭などの学校行事や、オーストラリア語学研修、留学生との交流などの取り組みが紹介されました。アンケート結果では、これらの取り組みに対する満足度が 95～100%と高い数値を示していることが報告されました。

「機能的な組織運営による学校力の向上」については、他教科の授業見学、教科内での研修、校内研修（年 5 回）、防災教育などの取り組みが報告されました。また、「生徒・保護者・地域から信頼される学校づくり」に関して、PTA 活動（年 5 回の実行委員会）、保護者向け進路説明会（参加率約 60%）、学校説明会（年 8 回）、クラブ体験（6 月・10 月実施）などの取り組みが紹介されました。特に、学校の魅力発信としてInstagramを活用し、ホームページよりも多いアクセス数（月 7 万件）を得ていることが報告されました。

「校務運営の効率化の推進」については、来年度より勤務時間を 30 分繰り下げることに加え、デジタル採点の本格運用、校内の無線化、職員会議のペーパーレス化などの取り組みが報告されました。特にデジタル採点については、従来 2 日程度かかっていた採点業務が 1 日で終わるなど、業務効率化に大きく貢献していることが説明されました。

4、前期授業アンケート結果について（教頭）

授業アンケートの結果について報告がありました。9つの質問項目のうち、特に「Q-6」（自分の考えをまとめたり発表する機会がある）と「Q-5」（授業の工夫）の項目で昨年度より数値が向上していることが報告されました。自由記述では、「先生の授業は本人的でわかりやすい」「質問に肯定的に捉えてくれるから安心して発言できる」などの肯定的なコメントがある一方、「字が小さくて見にくい」などの改善点も挙げられました。保護者懇談会で、生徒や保護者の意見や要望も踏まえ、常に授業改善を求めていく姿勢で取り組んでいることが説明されました。

5、令和 8 年度教科書採択と学校改革 PT について（教頭、首席）

令和 8 年度の教科書採択については、昨年と同様で教科書の新規採択はないと報告されました。続いて、学校改革 PT の活動について説明がありました。2年連続で定員割れしている状況を踏まえ、学校の魅力向上や改革に向けた取り組みが進められています。具体的には、学校説明会や学校紹介パンフレットの配布エリアの拡大、各種進学フェア（塾主催）への参加、クラブ員（生徒）による出身中学校へオープンスクールの案内配布などの広報活動の強化や、授業時間の見直し（7 時間から 6 時間への削減検討）、

土曜講習のあり方（実施内容の変更、回数の増減、実施の是非）などが議論されていることが報告されました。

協議（学校教育計画進捗状況について）

委員から学校教育計画の進捗状況について質問がありました。特に、国公立大学の現役合格率（目標 13%以上に対して実績が下回っている）、1 日の平均学習時間の状況、遅刻数の増加傾向とその対応、部活動参加率（目標 90%以上に対して実績約 85%）、教員研修の評価指標（70%以上の肯定的回答）の妥当性などについて質問がありました。また、学校教育自己診断で「学校に行くのが楽しい」という項目について、生徒（約 90%）と保護者（約 85%）の間に乖離があることについても質問がありました。学校側からは、国公立離れの傾向、遅刻の背景（連絡システムの変更、コロナ後の影響など）、教科間の授業アンケート結果のばらつきなどについて説明がありました。

協議（学校特色枠と安心・安全な環境づくりについて）

委員から学校特色枠入試について質問があり、特に「文化・体育的活動」の具体的なイメージや文化部の位置づけ、私学との競合などについて質問がありました。校長からは、特定の部活動を強化するというよりも、部活動を通じて培われる粘り強さや協調性などの力を育てることが目的であると説明がありました。また、別の委員からは学校説明会での安心・安全な環境づくりの伝え方や、単位制・半期認定制の活用について質問がありました。学校側からは、生徒の実像を見てもらうために生徒自身に話してもらうなどの工夫をしていることや、2 年生から始まる科目選択に向けて 1 年生の 6 月から進路指導を行っていることなどが説明されました。

協議（授業時間の見直しと次回協議会について）

授業時間を 7 時間から 6 時間に削減する検討について議論がありました。校長より、**単に時間数を減らすのではなく、教育課程全体を見直し、放課後の時間を生徒が主体的にデザインできるようにすることの重要性**が強調されました。具体的には、探究活動、進路研究、部活動、地域連携活動など、生徒が自らの目標に応じて活用できる環境づくりが重要であると述べられ、委員からは強い賛同意見をいただきました。また、リモート授業の対応や心の問題を抱える生徒へのサポートについても意見交換がありました。

最後に、次回の学校協議会は 1 月 30 日に開催され、公開授業の見学も予定されていることが案内されました。